

しまぎんの 経営情報

2006年(平成18年)6月期
【単体ベース】

SHIMANE 島根銀行



1. 営業実績

収益性のバロメータ

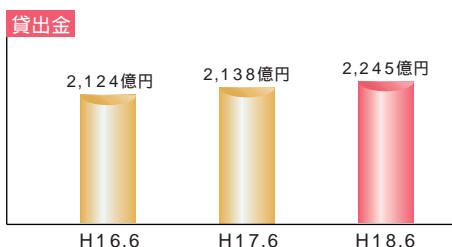
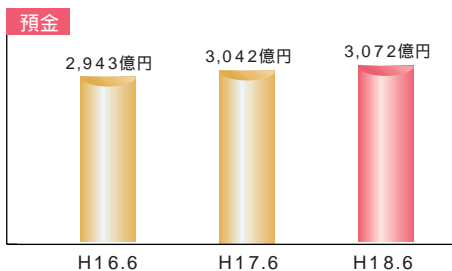
預金・貸出金および個人預り資産の状況は次のとおりです。

預金・貸出金

(百万円)

区 分	平成16年6月期	平成17年6月期	平成18年6月期
預金残高	294,389	304,249	307,227
個人預金	197,943	207,724	213,163
法人預金	67,411	66,268	66,084
公金預金	22,286	21,052	19,530
金融機関預金	6,747	9,203	8,449
貸出金残高	212,477	213,807	224,522
個人ローン	46,701	45,617	49,007

平成17年4月から両県制度融資に係る預託金の預入方法が変更されたため、平成16年度の当該預託額について、預金残高の内訳を法人預金から公金預金に組替えて表示しております。



個人預り資産

(百万円)

区 分	平成16年6月期	平成17年6月期	平成18年6月期
個人預り資産	206,439	221,172	233,261
個人預金	197,943	207,724	213,163
投資信託	1,959	3,487	5,644
公 共 債	635	1,063	1,422
年金保険	5,900	8,896	13,030

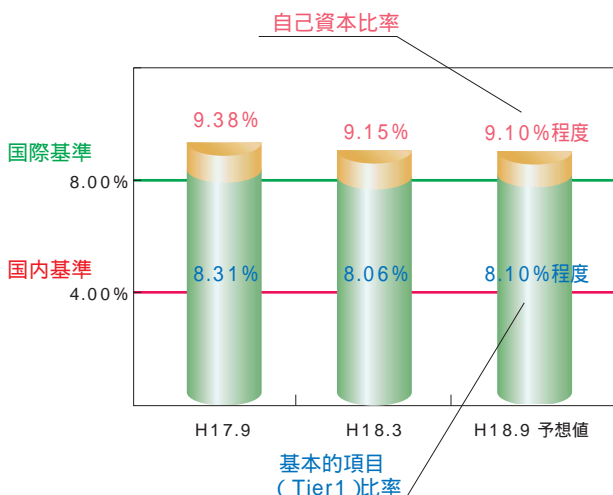
2.自己資本比率

健全性・安全性のバロメータ

自己資本比率は、銀行が保有する貸出金や有価証券等の資産に対し、資本金や引当金等の内部資金をどの程度保有しているかを見る指標であり、銀行の健全性を示す重要な指標です。

区 分	平成17年9月期 実績値	平成18年3月期 実績値	平成18年9月期 予想値
自己資本比率	9.38%	9.15%	9.10%程度
基本的項目(Tier1)比率	8.31%	8.06%	8.10%程度

上記の予想値は、経営環境に関する前提条件の変化に伴ない変動することがあります。



自己資本比率について

当行のように国内基準(海外営業拠点を有しない銀行の基準)の対象となる銀行では、自己資本比率が4%以上あることが求められています。平成18年3月期の自己資本比率は9.15%であり、国内基準の4%はもちろんのこと、国際基準(海外営業拠点を有する銀行の基準)の8%も余裕をもってクリアしています。なお、平成18年9月期は、9.10%程度を予想しています。

基本的項目(Tier1)比率について

基本的項目(Tier1)比率とは、自己資本の根幹を成す「基本的項目」(資本金や剰余金など)によって算出される比率のことです。平成18年9月期は8.10%程度を予想しており、この比率でみても国際基準の8%をクリアする見込みです。

3.不良債権

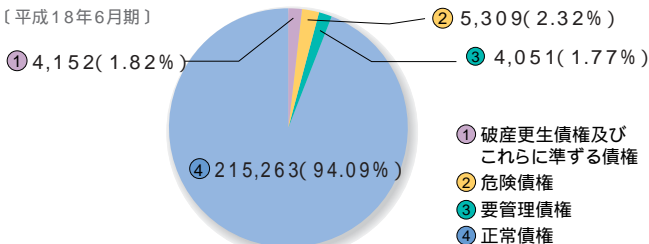
健全性のバロメータ

金融再生法に基づく資産査定開示額(貸出金及び支払承諾等貸出金に準ずる債権を対象)は次のとおりです。

(百万円)

区 分	平成16年6月期	平成17年6月期	平成18年6月期
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,758	3,497	4,152
危険債権	4,761	5,293	5,309
要管理債権	3,374	3,990	4,051
計	11,893	12,781	13,513
不良債権の割合	5.45%	5.83%	5.90%
正常債権	206,096	206,253	215,263
合計	217,989	219,034	228,776

(平成18年6月期)



平成18年6月期の不良債権の開示について

- 平成18年3月末から平成18年6月末までの倒産・不渡り等の事実について、当行の資産自己査定基準に基づき債務者区分の見直しを行いました。
- 平成18年6月期の不良債権残高には、債務者区分の変更と認められる債務者の債権額またはこの間の増減額を反映しています。
- 算出方法については、年度末及び中間期末に開示する際の方法とは異なるため、計数は連続しておりません。
(監査法人の意見は決算期に受けることになります。)

4.有価証券

健全性のバロメータ

有価証券の評価差額等は次のとおりです。

(億円)

区 分		平成16年6月期	平成17年6月期	平成18年6月期
満期保有目的の債券等	差 額	5	1	6
その他有価証券	評価差額	17	1	12
内 訳	債 券	11	1	15
	株 式	2	1	1
	そ の 他	3	1	0

「売買目的の有価証券」はありません。

「子会社・関係会社株式」で時価のあるものはありません。

「差額」及び「評価差額」は、それぞれ帳簿価格と時価との差額を計上しております。

「株式」及び「その他」に含まれる投資信託等の評価差額は、月中平均時価に基づき算出しております。

S 5.トピックス

経営者セミナー「しまぎんビジネスクラブ経営アカデミー」の開催

しまぎんビジネスクラブの活動の一環として、株式会社タナベ経営とのタイアップにより、当地の中小企業経営者等を対象とした経営者セミナー「しまぎんビジネスクラブ経営アカデミー」を企画し、第1回セミナーを平成18年6月28日に開催いたしました。同セミナーでは中小企業経営者等の資質向上を主眼としており、これによって地域経済の活性化に寄与することを目的としております。当年度につきましては、経営の基本となるテーマを中心に年6回の開催を予定しております。

第1回 テーマ	『企業経営の原則原理』 (永続を目指す企業経営者に必要な4つの力)
参加者数	30名
参加対象	当地中小企業の経営者、若手・後継経営者、経営幹部



しまぎんFA(フィナンシャル・アドバイザー)センターの休日相談業務の実施

平日のご来店が難しいお客様に対して休日における金融に関する相談窓口を提供するため、同センターでは休日相談業務を実施しております。今後、資産運用や住宅取得等をテーマにした各種セミナーの開催も予定しております。

場 所	松江駅前支店・駅前本部ビル2F (松江市朝日町485-8)
業務内容 (注) 各種申込書等の受付・資金の授受は行いません。	個人のお客様の各種ローンに関するご相談 個人のお客様の資産運用に関するご相談 住宅メーカー等のお客様の個別案件に関するご相談
実施日	平成18年4月～9月(毎月第2・第4土曜日) 受付時間 / AM10:00～PM4:00



ご予約・お問い合わせは、フリーダイヤル:0120-883-947 まで

〔しまぎん店舗のご案内〕

島根県(25カ店)

松江市(10カ店)

本店営業部 TEL(0852)24-1234

松江駅前支店 TEL(0852)24-1351

南支店 TEL(0852)24-1251

学園通支店 TEL(0852)21-2120

北支店 TEL(0852)24-1451

津田支店 TEL(0852)24-1551

松江卸団地支店 TEL(0852)24-1651

山代支店 TEL(0852)24-1751

アピア支店 TEL(0852)23-7777

上乃木支店 TEL(0852)22-7755

隠岐郡(1カ店)

西郷支店 TEL(08512)2-1224

安来市(1カ店)

安来支店 TEL(0854)22-3535

出雲市(5カ店)

出雲支店 TEL(0853)30-6611

出雲東支店 TEL(0853)22-5260

出雲中央支店 TEL(0853)23-6262

大社支店 TEL(0853)53-2142

平田支店 TEL(0853)62-2314

雲南市(2カ店)

大東支店 TEL(0854)43-2621

木次支店 TEL(0854)42-0860

木次支店は、本年10月10日の店舗移転に伴い、「雲南支店」へ名称変更いたします。

簸川郡(1カ店)

斐川支店 TEL(0853)72-5200

大田市(1カ店)

大田支店 TEL(0854)82-0395

江津市(1カ店)

江津支店 TEL(0855)52-2626

浜田市(1カ店)

浜田支店 TEL(0855)22-0276

益田市(2カ店)

益田支店 TEL(0856)22-2222

益田北支店 TEL(0856)23-4455

鳥取県(9カ店)

米子市(4カ店)

米子支店 TEL(0859)34-3131

角盤町支店 TEL(0859)32-5121

米子駅前支店 TEL(0859)33-5221

米子東支店 TEL(0859)22-7370

境港市(1カ店)

境支店 TEL(0859)42-3761

日野郡(1カ店)

根雨支店 TEL(0859)72-0371

倉吉市(1カ店)

倉吉支店 TEL(0858)22-4158

鳥取市(2カ店)

鳥取支店 TEL(0857)22-3118

鳥取駅南支店 TEL(0857)24-8141

本ミニ・ディスクロージャー誌は、しまぎんの主要な経営情報をタイムリーに、また、分かりやすくお伝えすることを目的として作成しております。

今後も地域のみなさまに、積極的な経営内容の情報開示をおこなってまいります。

なお、本誌記載の情報は当行ホームページに掲載しております。

島根銀行

(平成18年8月発行)

お問合せ先：業務企画グループ

松江市東本町2-35 〒690-0842

TEL.0852-24-1234(代表)

URL.<http://www.shimagin.co.jp>

R100



本誌の作成にあたっては、環境にやさしい大豆インクと古紙配合率100%再生紙を使用しております。